

第500号
平成4年7月



人口 245,154人
世帯 84,376世帯
※H4.6.1現在

500号では、紙面の真ん中に当たる見開き8、9ページで「おかげさまで500号」と題した特集が生まれ、創刊号からの41年間を振り返っています。

シリーズ7回目「あすの街づくり計画」では、佐世保駅周辺再開発事業が「21世紀の新市街地をめざした市最大のプロジェクト」として紹介されています。鉄道高架化事業や西九州自動車道建設、ポートルネッサンス21計画など佐世保駅周辺地区の全体イメージ図が冒頭に載せられ、本市の海と陸の玄関口が今後生まれ変わっていくことを伝えています。この事業は「国際観光都市・させぼの玄関口にふさわしい街づくり」、「人、文化、情報が豊かに交流する新拠点づくり」などを目標としており、21世紀に夢が現実になりますと結んでいます。

「佐世保市に合併して50年」では、佐世保市と合併して50周年を迎えた旧早岐町、大野町、中里村、皆瀬村の各地区で開催された記念式典などの様子が掲載されています。

第400号
昭和59年3月



人口 250,512人
世帯 80,092世帯
※S59.2.1現在

400号では、今では珍しくなった「たこ揚げ大会」の様子が巻頭を飾っています。「親子づれや小学生グループなど、約150人が思い思いに手作りのたこなどを持ち寄り…」と書かれた記事や写真からは、四半世紀前のほのほとした雰囲気が漂っています。

今も広報紙で年に一度お知らせしている「市職員の給与について」では、大学卒職員の初任給が12万7,100円(昭和58年4月1日現在)と書かれています。現在は17万2,200円(平成20年4月1日現在)です。

「港湾機能を大幅に充実 前畑に大型クレーン」では、前畑外貿ふ頭に設置された大型クレーンの能力、波及効果などが紹介されています。佐世保港の貿易実績の飛躍的な向上が期待されると書かれています。

「1日に12回も出動」では、昭和58年の救急活動回数が4,417回で、前年に比べ350回も増えたと書かれています。救急活動の回数はその後も増加を続け、現在は10,040回(平成20年)にも上り、当時の2倍以上になっています。

平成4年
の佐世保



8月11日、国道205号針尾バイパス全線開通。第2期工事(指方-南風崎間2.2km)完成

市長：棧熊獅(かけはし・くまし)

- 3月15日 早岐機関区から蒸気機関車が姿を消す
- 3月17日 市が「潤いのあるまちづくり」大臣賞受賞
- 3月25日 ハウステンボス開業
- 4月12日 させぼシーサイドパーク完成

※県内で初めて「健康都市宣言」を発表。高齢化の進行に備え、福祉の充実と健康な環境作りを目指す。

昭和59年
の佐世保



6月、白浜海水浴場に本格的な市営キャンプ場オープン

市長：棧熊獅(かけはし・くまし)

- 1月31日 魚市専用鉄道廃止
- 2月17日 寒波襲来、養殖場でハマチ大量死、損害3,800万円、水道管破裂相次ぐ
- 7月24日 西九州自動車道「武雄・佐世保道路」着工

※夏の猛暑でクーラー、扇風機の売れ行き最高。島瀬公園にカード式電話器が設置される。

第300号
昭和50年11月



人口 247,909人
世帯 72,008世帯
※S50.10.1現在

300号の巻頭を飾ったのは、20周年を迎えた「三川内陶器市」が8万人の人出でにぎわったという記事。県下一円、佐賀、福岡方面からも買い物客が訪れ、4日間で5,000万円以上の売り上げがあったと記されています。「創業元和八(1622)年 数少ない郷土特産」として、三川内焼の歴史も紹介されています。

「盛り上がった市民体育祭」では、力強く入場行進する選手たちの写真が掲載され、約6,000人の選手の参加によって盛大に開催された様子が伝えられています。選手宣誓した梅野伸二君(赤崎小6年・当時)や、三重国体に出場するSSKソフトボールチームなどのことも併せて書かれています。

「公職選挙法の一部改正」では、この年の10月に一部改正された同法の内容などが伝えられています。主な改正内容は、候補予定などが選挙区内の人へ寄付することを全面禁止するもので、有権者も寄付を要求したり勧誘したりせず、金のかからないきれいな選挙を実現するよう呼び掛けています。

昭和50年
の佐世保



6月11日、国見トンネル貫通。貫通点で握手する辻市長(右)と竹内伊万里市長(左)

市長：辻一三(つじ・いちぞう)

- 3月 海上保安部潮流調査、西海橋下で時速20km
- 3月10日 佐世保駅に自動券売機設置
- 4月 6日 10年ぶりに「市立休日急病診療所」復活
- 5月 5日 中央公園内に「子どもの森」完成

※造船不況となり、各造船所は海自艦艇の造修を積極受注。SSKは残業時間原則ゼロの方針を固める。

第200号
昭和43年3月



人口 251,819人
世帯 65,020世帯
※S43.1.31現在

200号の巻頭には、「早朝から除雪清掃に励む戸尾小学校の児童」の写真が掲載され、その下には昭和42年度の「善行青少年」として市長表彰を受けた個人42人が紹介されています。

「明年中に基地内移転」では、名切町の米軍家族住宅の移転に伴う新しい住宅の起工式が2月28日に米軍基地内で行われ、翌年8月に移転した後、跡地には市民の憩いの場として公園を建設する計画があることなどが書かれています。

「住民異動届などに関する手続き一覧表」では、「手続きに必要なもの」の一つに「米穀通帳」という言葉が出てきます。当時すでに米の配給制度はなくなっていました。米の購入にはこの米穀通帳が必要で、これが身分証の役目も果たしていたそうです。

現在も続いている本紙の人気コーナー「歴史散歩」が始まったのは昭和40年2月号からです。200号では三浦町にある「カトリック聖心教会」が「平和都市佐世保のシンボル」として紹介されています。

昭和43年
の佐世保



1月21日、エンブラ入港反対集會に9,800人が参加。デモ隊と警官隊が佐世保橋にて衝突

市長：辻一三(つじ・いちぞう)

- 1月19日 米原子力空母「エンタープライズ」が日本で初めて佐世保に入港
- 3月12日 県立短期大学佐世保商英部、最後の卒業式
- 4月 4日 早岐バイパス開通
- 7月14日 総合グラウンドにプールと庭球場完成
- 10月 1日 新大阪・佐世保間に寝台特急「あかつき」運行